

耕地雑草って？

耕地雑草ってなんですか

耕地雑草とは、**耕地に生える、作物（人間が作ろうと思って作っている植物）以外の高等植物**のこと。例えば、花のきれいなツユクサも、畑にあれば手強い耕地雑草だけど、育てているのなら、れっきとした茶花とか庭の花。馬鈴しょの堀残しも小麦畑に生えると大変。昔作ったキクイモも、今ではやっかいな耕地雑草になっているところもあります。**植物は、生えてはいけない耕地に生えたときだけ耕地雑草になる**のです。ここの耕地に生えているものも、あそこの耕地に生えているものも、地球の裏側の耕地で生えているものも、耕地雑草です。そして、次の世代も耕地に生えるのでしょ。そこの道ばたに生えているものは、今は耕地雑草ではありません。けれど、次の世代では耕地雑草になるかもしれません。

さて、耕地にはどんな植物が生えてしまうのでしょうか、作物の他には。芽生えや幼植物のうちになんとかしなければ。

どうして生えてはいけないの

作物や人間にさまざまな害を与える。作物を作る人間にとってとっても邪魔。

作物に対する害：養分や水分・光を奪われる。病虫害は喜ぶ。→うまく育てない。

人間に対する害：草取りをさせられる。種をおとされると、また来年も。

作物がうまく育たなくなったり、収穫の邪魔になって、大損。

どうやったら雑草はいやがるか

目先の害を防ぐ、だけでなく、耕地利用の全体を通して、生えないようにする、その努力を積み重ねることによって、密度は下がり、そして、生えなくなる、つまり、除草作業はいらなくなり、農業は雑草との戦いから解放されるようになる。作物を生かしながら、そばにある雑草だけを退治するというのは難しい。作物がない時の対策を大切にしよう。

種子や地下茎などの繁殖器官を持ち込まない、入れない、作らせない

持ち込まない：未熟堆肥では種子は死なない、家畜に食べられても種子は死なない（死ぬこともある）。作物種子に混ざっていることもある。耕地のそばの草むらにもいっぱいある。

作らせない：入って、生えてしまったものを、結実前に退治する（除草）。

入ってしまったものを生やさない、やっつける

十把ひとからげで一網打尽。草地や果樹園では、邪魔にならないものには無理に手を出さな。種は着けさせるな。

作物がないときにこそ

作付前、収穫後、休閑時、緑肥栽培時は、作物に気兼ねしなくてよい。このときこそ、簡単でかつ徹底的な対策がとれ、発生密度を押さえ込むことができる。種をつける前とか地下茎などが太りはじめるまでにやっつけよう、繰り返し。機械でもいいし、除草剤だっていいし。

作物があるときには

種をまいたり、苗を植えた後は大変だ。作物も耕地雑草も高等植物、近い種類ならなおさらだ。

作物の力で？：しっかり育つと耕地雑草に負けにくい耕地。雑草の生育を抑える。が、耕地雑草も易々とは負けてくれない。

機械や人力で：草取りクリーナ、芽が出る前の表層攪はん、中耕手取り（抜き草、草削り、種草取り）

除草剤で：耕地雑草が芽を出すまえに（土壌処理）、芽を出してから（茎葉処理）作物が枯れるかもしれないし、雑草は枯れないかもしれない。除草剤には期待できる効果や、使用法が厳密に決まっているので間違わないように。